

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 34 号

平成24年11月 1 日



所蔵作品紹介

(33)

「誕生仏」(ブロンズ)

佐々木 大樹 作
(高さ 136 × 幅 38 × 奥行 26)

同窓生ギャラリー

第12回

平成24年 4月14日(出)〜5月6日(日)

建築家5人展

― 地域に根ざした住宅 ―

県内を中心に活動する建築家、近江美郎(砺波)、森正義(氷見)、石黒孝志(高岡)、三谷光雄(高岡)、大野博和(高岡)の5氏が集い、「地域に根ざした住宅」をテーマに、これまでに手掛けた建築設計の作品が展示されました。

住居にも多様な価値観が認められる今日、各氏の作品は、長年地域で育まれてきた建築文化を大切にしつつ、プライバシーを尊重しながらも開放感のある住宅の提案、さらには古民家の新しい住まいづくりなどをコンセプトに、それぞれの個性と創造性を発揮した作品が並べられました。

本校建築科の生徒も多数見学に訪れ、先輩の活躍状況、実際の建築物の写真や設計図、建築模型を興味深く見学していました。生徒には自分の科に対する認識を深め、さらには建築家として求められる資質などその厳しさを実感する良い機会となったようです。



第13回

平成24年 5月12日(出)〜6月3日(日)

堀井 三郎 絵画展

― 40年間を顧みて ―

射水市黒川在住の堀井三郎氏(機械科・昭和32年3月卒)が画業40年を振り返り、30号から150号までの油彩画や水彩画など計28点を展示されました。

堀井さんは、洋画家林清納氏(砺波市)に師事し、平成6年、7年と連続で県展大賞を受賞され、「越中フェスタ」でも入賞を重ねています。

魅力ある作品のなかでも、71年制作の油彩画「パン屋」はスケッチ風の素朴な表現で、生活感に溢れたほのぼのとした作品に描かれていました。また、75年制作の水彩画「仲間との休日」は古びた物への愛着と優しさがこめられ、堀井さんの人柄がしのばれました。

会期中、ご本人と同好の志が「ギター、ハーモニカの演奏会」を開催されるなど、絵と音楽を楽しんでいただけの楽しい展覧会となり、数多くの来館者がありました。



第14回

平成24年 6月9日(出)〜7月1日(日)

泉田 守 作品展

― 御興・獅子頭・玩具の世界 ―

高岡市下牧野在住の泉田守氏(機械科・昭和40年3月卒)は、「お祭り」が大好きで、永年にわたって県内外に伝わる曳山や獅子舞などを研究し、自らも手作りの山車(やま)や獅子頭、からくり人形を制作されています。今回はこれらの作品を含めた33点が展示され、「ものづくり」の楽しさや面白さが会場を包みこみ大変好評でした。

展示は、県内外の曳山の来歴を展示パネルで紹介された他、お祭りや縁日で見かける玩具などが所狭しと並べられ、とりわけ、山車(やま)や小型曳山の引き回しの実演日には多くの親子連れが見学し、実際に乗ったり、動かしたりと賑やかな雰囲気になりました。また、笛や太鼓を奏で獅子舞に興じる方、昔懐かしい手作りおもちゃに思い出に浸る方など、「ミニお祭り」気分を満喫しておられたようです。

展示された作品は、身近にある小物、廃材を利用して作られていましたが、自分の趣味を深め、楽しく人生を過ごしておられる泉田さんがうらやましく感じられる展覧会でした。



第75回

第5回 青湧会展

平成24年 8月4日(出)〜8月26日(日)

本校卒業生で美術愛好家の太田蒼久氏を中心とする「青湧会展」は今年で第5回展を迎えました。

出展者は、写真4名、工芸(彫刻・陶芸)4名、プリザーブド・フラワー1名、絵画(油絵・日本画・ちぎり絵・水彩画)8名に加え、グループのアドバイザーでもある池上栄一先生(陶芸)の賛助出品もあり、多彩な作品約40点が展示されました。

とくに来館者の目を引いた作品として、太田氏による昭和30年代の高岡駅舎を描いた油絵や、明治後期の古城公園のグラビア写真を元に、満開の桜に覆われた公園の様子を復元した水彩画などは郷愁を誘うものでした。

また、アルミ鍍金で、金、銀の鶴の優雅な飛翔を表現したパネル作品、木材を芯材に用いた表面をレンガ風に仕上げた立体彫刻等、それぞれに新しい表現技法を試みる作品が数多く見られました。

他に、美しい四季の風情を捉えた写真などを癒される作品など、出品者の個性が溢れた展覧会となり、好評の内に幕を閉じました。



第76回

第5回 夢散歩展

平成24年 9月1日(出)〜8月23日(日)

有志8名による「夢散歩展」は、例年同時期に当美術館で開催され、今年で5回目を迎えました。

主宰者の豊本外良氏は、4枚連結の大型パネルに、機械のメカニズムをテーマとしたモノクローム表現による大作を展示。また、本郷正典氏は、連結された電車に「回想、時間」などの抽象概念を重ね合わせた油絵の連作を出品され、特に高岡市展で大賞を受賞された作品は圧巻でした。

他の洋画では、身近な路地を題材とした磯部正子さんの親しみやすい作品や国内外の雄大な山岳をテーマとした田村紀子さんの作品、若手で自己の内面を厳しく見つめた大島望氏の異色な作品が並べられました。

また、岡山寛氏は「中里和人写真集―小屋の肖像―」のイメージを繊細な筆致で表現した鉛筆画、磯部敏彦氏は「7・16原発 いらぬ10万人集会」に参加取材した写真パネルを、草島誠一氏は、丘や森を想起させる造形にグラデーシヨンの釉薬を施した陶芸作品を展示されました。

また、9月17日(敬老の日)には、音楽グループ「Yunesapo BREZE、てくてく」によるギター等による演奏会「夢と音楽を語る集い」も開催され、展覧会に華を添えました。



▲豊本外良氏パネル

第77回

河上 健三 洋画展

平成24年 9月26日(休)〜10月17日(休)

洋画家河上健三氏(射水市)は、昭和38年に工業化学科を卒業。射北中学校時代の美術の恩師である秦豊秋氏に触発され、洋画を趣味として研鑽を積まれてきました。

今回は、ご自身の歩みを振り返り26点の油絵作品を展示されました。初期の静物画や工場風景は、画家佐伯佑三を彷彿とさせるような構成と色調で、力強いタッチで描かれた作風が目を引きました。

近年のイタリアのベネチアで取材された風景画や新湊大橋を描いた作品は、色彩や構図が一変し、新たな表現が用いられており、氏の制作への挑戦と画風の変遷が良く伺われました。

また、東日本大震災や友人の死からインスピレーションを受けて描かれた、抽象による心象作品も高く評価され、会期中、ご友人や絵画仲間など約500人を超える入館者がありました。



常設展 I期 4月14日(土)〜7月1日(日)

「仏教美術作品展」

高岡銅器に本格的な彫塑技法を伝えた大塚秀之丞(号楽堂 山口県出身)は、石川県の九谷焼で陶製や原型制作の指導者であったが、明治27年の本校創校時に、初代校長納富次郎が金工科教師として招聘しました。24年間(明治27年〜大正6年)の在職中、厳格な性格で多くの逸材を育成しています。写真は氏が制作された「観音像」で、他に銅器数体を加え、その教え子である松村秀太郎、佐々木一郎(大樹)、山本与三次郎(雲濤)等の作品を展示しました。

また、木像仏像では、澤田観廣作「不動明王」、秦紹世「天女」、村上炳人「聖観音像」、仏画では、久隅守景作(伝)「十六羅漢図」、「愛染明王図」、「虚蔵菩薩図」等、他に銅版鍛金による飴谷有民作「風神像」など51点を展示しました。



常設展 II期前期 7月7日(土)〜9月30日(日)

「茶道具・茶器展」

今年度、富山県で第36回全国高等学校総合文化祭が開催され、高岡市の国宝瑞龍寺が「茶道部門」の会場となるに因んで、本校所蔵の茶道具・茶器等を当館美術館にも展示し、全国の高校生に鑑賞して頂きました。

特に、古儀茶道敷内流の茶席に使用する茶道具組、裏千家第15代宗匠鵬雲斎筆一行軸「白珪尚可磨」を主とし、人間国宝金森栄一作「鍔銅銀象嵌六方花生」、5代酒井田柿右衛門作「赤絵香炉」、初代校長納富次郎筆「山水画」等の他、本校ゆかりの窯元の抹茶茶碗など計87点を展示しました。

来館する茶道部の高校生や、茶道をたしなまれる方々にはことさらに関心を持ってご覧頂けました。



常設展 II期後期 10月2日(土)〜11月4日(日)

「尚美展ポスター展」

本校は、明治27年に高岡市地場産業の若き担い手の養成を目的に、全国でも珍しい工芸学校として創設されました。その歴史と共に「尚美展」は明治36年に第1回展を開催し、生徒、教職員、卒業生の作品を広く市民に公開してきました。太平洋戦争開戦までは高岡地区の一大催事として万人規模の入場者があったようです。

その後、昭和22年から再開され(第40回)、この年には新制高等学校設置、小学区制総合制高設置に伴う統合で、本校は高岡高校と統合されています。昭和23年9月から昭和25年3月まで「高岡中部高等学校」と名称が変わり第42回展を開催。昭和25年4月には現行の「高岡工芸高校」となり、以後連続と開催され、本年度で「第105回展」を迎えました。

美術館では、所蔵する「尚美展ポスター」55枚を初めて一堂に展示いたしました。卒業生の皆様には大変懐かしくご覧頂けたようで感激されておりました。ただ、残念ながら明治期、大正期、昭和初期(第1回〜第39回)のものは現存していません。担当者としては欠落している回のポスターを何とか復元したいと考えておりますので(終戦以降)、お心当たりがありましたら事務局にご連絡願えれば幸いです。

「第105回尚美展を祝って」

10月19日(金)〜11月4日(土)

今年度は、豊本外良、太田紀久雄、米納睦子、岩城大介(洋画)、道吉勝重、石崎登志雄、坂田三男、頭川徹(日本画)、般若保(銅鑄吹分花器)、般若茂雄(銅鑄洋燈)、寺腰健一(写真)、竹田貞郎、米納宗宏(彫刻)、柴田秀紀(篆刻)など15名の同窓生及び関係諸氏による多彩な作品を展示しました。また、本館では教職員、PTAの作品や、玉井昴夫氏所有の藤子・F・不二雄複製原画30枚と漫画家まつもつ(すみ) (両氏と本校卒業生)の原画を展示しました。尚美展期間中でもあり来場者約1500名を数え、多くの方が大変興味深く観覧されました。

編集後記

今年度の前期企画展「同窓生ギャラリー」が6展開催でき大変有り難く思います。特に「建築家5人展」、泉田守氏の「御栗・獅子頭・玩具の世界」展は、これまで企画したことのない展覧会で大変好評でした。回を重ねた展覧会や今回初めて開催された展覧会も、作家の皆様全ての力作を出展して頂けたこともあり、数多くの入館者(約6000人)がありましたこと、深く感謝致しております。また、常設展では、これまで公開できなかった作品の展示や、「尚美展ポスター」を一堂に展示できたことなど大変嬉しく思っております。今年度より美術館の仕事に携わっていますが、本校収蔵品の奥深さに感心しつつ、あらためて工芸高校の歴史の重みを認識しております。今後とも本校所蔵の美術品を楽しみながら、皆様のご期待に添えるような運営に努めたいと存じます。(古海 優子)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会
住所 933-8518 高岡市中央一-1-210
TEL 076-621-1630(内線611)
FAX 076-621-1631